同窓會報

2025年（令和７年）
6月30日

発行：東京都立大学
附属高等学校同窓会
〒152-0023
東京都目黒区八雲 1-1-2
発行人：嶋津和行
編集：同窓会報編集委員会

昨年10月26日に同窓会の定期総会が、開催されました。前回の総会以降の活動報告、会計監査報告の後、会則の一部改訂、今後の活動方針の討議などが行われ、役員改選では、新理事長に嶋津和行氏、副理事長に石川恵子氏などを選出して、新執行部が発足しました。

（総会の詳細はホームページを参照してください）

理事長就任に当たって
同窓会の更なる発展を

嶋津和行・26期

昨年10月の総会で理事長に選出された嶋津です。前任の宍戸さんに13年の長きに亘って当同窓会を牽引していただいたことに感謝の意を表したい。

宍戸さんが就任された2011年は3月に都大附が63年の歴史に終止符を打ち、一方、5年前に新入生を受け入れて開校した桜修館が前期3年、後期3年のフルの生徒が揃った年であった。

当時、東京都では中高一貫校が続々と開設され、石原都政下において、桜修館は都大附の後継校ではない、新たな方針の元に設立された学校であるとの言説も唱えられた。同窓会活動の難しさが感じられる。実際、中高一貫校に変わり、その前身の高校の同窓会活動が停止状態になった学校もあると聞く。この難局に宍戸さんは、同窓会の活動方針を明確にされた。

すなわち、

①会員相互の親睦を深める

②旧制府立高以来の伝統を受け継ぎ引き継いでいく

③桜修館の発展に資する

この方針を元に、新たな事業を開始された。

一、ホームカミングデーの開催

一、八雲が丘賞の創設

前者は卒業50年、25年、10年を迎える同窓生を母校に迎える行事で、とても好評である。運営に携わる大変さも同窓生の笑顔に触れると、来年も実施したいという意欲が湧いてくる。

また後者は、桜修館の堅実な活動をしながらも、日の当たらない部活動を表彰するものであり、生徒たちの中でも、認知度は高い。

桜修館の1期生から5期生までは同じキャンパスに都大附のお兄さんやお姉さんが一緒にいたこともあり、自由と自治、真理の探究に身を持って接し、現在の在校生の口からこれらの言葉が自然に出てくるほどしっかりと根付いている。

桜修館の三大行事である記念祭、クラスマッチ、合唱コンクールは自治会を中心に運営されている。

今後とも宍戸さんが敷かれたレールを推進して行くのが、まず私に託された使命と認識している。

四年後、府立高創立から百年の年を迎える。同窓生の皆様のますますのご支援を期待してやまない。

副理事長就任ご挨拶
全世代とつながりたい

石川恵子・35期

このたび副理事長を拝命しました。よろしくお願いいたします。自己紹介として、今までの同窓会とのかかわり・これからへの思いを簡単にお話しします。

同窓会理事には、2010年の閉校イベント（歌のイベント）に参加した直後、当時の事務局からご依頼があり、引き受けました。これを機会に、しばらく疎遠になっていた同級生とも連絡を取るようにして、今は在学中面識のなかった方とも人間関係を構築しております。

また、名簿管理の作業を通し、同窓会理事の先輩・後輩の皆様にはいつも支えられております。

今後は、同窓会報・ホームページ等の情報発信・管理において、年長世代・若年世代の両方に受け入れて頂けることも課題です。最善の策を探っていくうえで、皆様のお力添えをよろしくお願いいたします。

INDEX

1　新理事長・副理事長就任あいさつ
　26期　嶋津　和行
　35期　石川　恵子
2　「ホームカミングデー特集」
3　各世代のプレゼンも素晴らしく
　24期　高崎　俊之
　良く学びよく遊んだ6年間
　桜修館3期・小泉祐也
4　ホームカミングデーに寄せて
　49期　有志一同
5　創立百周年記念企画
　八雲が丘の100年
6　第12回「八雲が丘賞」
　吹奏楽部が受賞
7　「教育活動のさらなる充実を」
　桜修館校長　信岡　新吾先生
8・9　第76回記念祭特集
　ポスター28枚出現
10・11・12　同期会・クラス会レポート
　23期E組クラス会
　28期同期会
　16期G組クラス会
　13期傘寿記念同期会
　52期同期会
　44期C組クラス会
　19期同期会
13　硬式テニス部の堀越君追悼会
　18期　久保田純司、園本雄司
　事務局インフォメーション
14・15　事務局インフォメーション
　同窓会定期総会報告
　創立100周年記念事業・寄付募集
　2025年度同窓会役員
　2024年度事業・決算報告
16　年会費納入のお願い、訃報
　同総会への連絡方法、編集後記

第8回「八雲が丘ホームカミングデー」なごやかに盛大に

第8回「八雲が丘ホームカミングデー」
秋晴れのもと盛大に開かれました

第8回「八雲が丘ホームカミングデー」は、昨年11月30日の土曜日に、桜修館多目的ホールで盛大に開かれました。今回は卒業後50年の24期生と卒業後25年の49期生と卒業後10年の桜修館3期生の3つの期が対象でした。

この日、秋晴れのさわやかな天気の元、多目的ホールの「歓迎式典」に参加したのは、24期生50名、49期生20名、桜修館3期生46名で卒業生116名。特に、桜修館は1学年4クラス160名弱の卒業生なので、非常に高い出席率でした。

来賓としてご高齢に関わらず、24期担任の恩師・久野猛先生、船山鎮雄先生が参加されました。また、大変うれしいことに一昨年の第7回八雲が丘ホームカミングデーに参加した48期生が多数、事務局として参加してくれました。

同窓会理事長、桜修館副校長、桜修館PTA会長の歓迎のあいさつの後、校歌斉唱。桜修館の卒業生から「どっちの学校の校歌を歌うの?」という声がささやかれ、周りから「一緒、一緒」との声も。

そして、恒例の各学年が趣向を凝らしたプレゼンテーション。24期生はスライドを駆使して熱弁をふるいます。写真が白黒なのに時代を感じました。49期生と桜修館3期生はビデオで在校時代の思い出の数々を振り返りました。いずれの作品も秀逸の出来栄え、映像の笑顔とそれを見る参加者の笑顔が重なり、溶け合うようです。バックには当時流行った旋律が流れ、一層懐かしい気持ちを掻き立てました。

学生歌を斉唱。実は開催に当たり、各学年の幹事の方々と会議を重ねる中、「自分らの学年は学生歌を知らない。学生歌をカットしたい」と提案がありましたが、それはまったくの杞憂、高唱する卒業生の姿がありました。

全体の「歓迎式典」の後は3グループに分かれて行内見学。今回も桜修館の先生に案内役を務めていただきました。ご協力を感謝します。

今年の第9回八雲が丘ホームカミングデーは10月26日(日)に開催予定です。対象の第25期、第50期、桜修館第4期の皆さんには、個別に連絡をさし上げます。

各世代のプレゼンも素晴らしく

高崎俊之・24期

令和6年秋の終わりにしては暖かい日、50年前に思いをはせながら、都立大学駅からかつて通いなれた坂道を同窓会会場へ向かいました。

◇

親の期待を受け入学した母校は、立て看板に囲まれた大学の正門を抜けた先にあった。一年生の教室は解体寸前の旧校舎にあり、新校舎に移れた時は嬉しかった。大学と同じ敷地内にあったこと、私服登校が許されていたこと、喫茶店、麻雀荘、パチンコ店、雀球など遊興環境が整っていたこと、定期試験が行なわれなかったことなどが重なり、かなり自由に気儘に無秩序に学園生活を過ごしていた。しかし、自由というのは結構しんどいもので、何から何まで自分で決めて、自分で責任を取らなければならない。何度も挫折しそうになった時、ギターをかき鳴らして、歌を唄うことを教えてくれた人がいた。奇しくも、その彼が逝った年に都附高もなくなった。

◇

平成27年10月17日に大学跡地にできたパーシモンホール側のyakumo111で、還暦記念の24期同窓会が、A組佐野章氏の声掛けで90名ほど集まりました。当時、ひとクラス50名ほどで、AからFまで6クラスあったので、卒業後40年経っても三分の一近くが揃ったのは、すごいことだったと今でも思います。同じクラスは勿論、他のクラスの懐かしくも、余りの変貌に驚いたものです。

それなので、三世代交流の同窓会というものに、疑問と不安を感じていましたが、ホームカミングデー事務局の継承されてきたノウハウや、独自の斬新なアイデアを活かした企画、綿密な打ち合わせの成果で、総勢120名強の卒業生が会しました。久野先生、船山先生のご出席もいただけ、都大附24期、49期、桜修館3期の各世代のプレゼンも素晴らしい演出でした。

願わくば都大附49期、桜修館3期の皆さんが、卒業後50年の式典に元気で参加していただきたい。今回、運営に携われた関係者の皆様、本当にお疲れ様でした。そして、有難うございました。

良く学び、本当によく遊んだ6年間

小泉祐也・桜修館3期

「ホームカミングデー」は、高校卒業後の節目に母校を訪問するイベントである。今回、都大附の皆様との合同開催という形で、私たち桜修館3期生も、卒業10年の節目にお声がけいただいた。

桜が満開に咲いたあの卒業式から、すでに10年が経っていることに、最初はあまり実感が湧かなかった。しかし、当日久しぶりに集まった友人たちの社会での活躍ぶりや、ママ・パパとして子どもを連れてきている姿を目の当たりにし、月日の流れをしみじみと感じた。

式典では、思い出ムービーで会場が大いに盛り上がり、校歌斉唱では、10年という時の隔たりを感じさせない一体感が生まれた。その後は、各グループに分かれて懐かしの校舎ツアーが行われ、教室の机に座ったり、お弁当を食べたベランダに出たりと、まるでタイムスリップしたような感覚を味わった。途中、部活動で登校していた後輩たちと話す機会があり、現在は17期生が在籍していると聞き、現実に引き戻される思いがした。

私たち3期生について少しご紹介させていただくと、「よく学び、よく遊び」の精神を、都大附の先輩方に負けないほど全力で体現した期だったと思う。体育祭や記念祭、自治会といった都大附時代から続く伝統行事に、中学1年生の頃から参加させていただいたこともあり、「自由と自治」の精神、そして行事を自分たちで作り上げ、全力で楽しむ姿勢に触れ、先輩方の背中に強く憧れたからだと思う。

今回のホームカミングデーは、都大附24期・49期の皆様とご一緒させていただいた。改めて、私たち桜修館を温かく迎え入れてくださった都大附の皆様、そしてこのイベントを企画・運営してくださった幹事の皆様に、心より感謝申し上げたい。

ホームカミングデーに寄せて

49期
有志一同

卒業から四半世紀！顔わかる？心配をよそに一目で懐旧。瀬戸さん作成49期ムービーは当時を思い出して感動！校内巡りでは面影残る校舎に話が弾んだ。森慎一郎先生(二次会に参加)にもお会いでき心温まる会だった。（D組・みさお）

◇

旧友と楽しい時間を過ごしました。娘も、この春から晴れて桜修館生に。いつの日か、親子でホームカミングデーに参加出来る日が来ることを願っています。（F組・cha）

◇

25年ぶりの再会。見た目は変わっても中身はそのまんま？笑って語れる関係っていいな、としみじみ思える時間でした。（D組・M・M）

◇

会える＋連絡とるきっかけになったので、参加して良かったです。（A組・片倉）

◇

全然変わっていない人から、面影すらない人まで色々で楽しかったです。（E組・H・S）

◇

お知らせが来た時は正直行こうか迷いましたが、この日からまた交流が始まり高校時代に戻ったような気持ちにもなれ、本当に出席出来て良かったです。（F組・なつき）

◇

高校3年間がとても楽しい時間だったなぁと改めて感じました！（F組・みさこ）

◇

初めて話す人もたくさんいたのにとても楽しく過ごすことが出来て、この企画に感謝してます。（D組・あやこ）

◇

25年ぶりの再会。思い出の視点がみんな違って驚いた。ひとりひとりの視点であの3年間がある。私の視点ではこうだ。体育館のハトを追い払おうとして放たれたバレーボールが今日も天井の欄干に挟まっている。記念祭の後夜祭では投票一位のバンドが夕日の中で演奏している。夜になれば花火師の広瀬先生が花火を上げる。山岳部のTくんは今日も校内放送で職員室に呼ばれている。沼津では揺れるバスの中で白地図に赤い線を引かされ、活断層を見つけたヤマケンがはしゃいでいる。自治会と教員の会議『連絡協議会』では『火事になるくらいだったら思い切って校内に灰皿を設置しましょう！』と自治会長が提案して気絶するほど怒られている。後夜祭にフォークダンスを復活させようと昼休みに全校生徒を集めて『手を繋いでくださーい！』と拡声器で叫んで踊らせている私がいる。

昨日まで私たちは高校生で、森先生の海外話も、世界史のテスト予告会も、全部がすぐそばにあった気がするのに、思えばずいぶん遠くまできた。人生は思ったより短くて、足早で、だから、会いたい人にはすぐに会ったほうがいい。そう思えた1日でした。（幹事代行：C組／瀬戸）

八雲が丘の3校・略年表

1929(昭和4)年　7年制の「府立高等学校」開校。尋常科（中学）4年・80名、高等科3年・160名で発足。
1932(昭和7年)　八雲が丘の新校舎完成、移転
1935(昭和10)年　校歌「嗚呼西山の」制定
1942(昭和17)年　戦時、半年短縮9月卒業
1943(昭和18)年　学徒出陣、勤労動員、南寮・北寮開設
1945(昭和20)年　戦中最後の記念祭。校名「都立高等学校」に敗戦、グランドは畑に
1948(昭和23)年　尋常科が都立新制高校となる。校旗、校歌、校章は新制高校が継承
1949(昭和24)年　高等科が「東京都立大学」に。都立新制高校は「東京都立大学附属高等学校」となり、女子20名募集、男女共学となる
1950(昭和25)年　旧制「都立高等学校」閉校。
1951(昭和26)年　都立大学附属高等学校第1回卒業式
1952(昭和27)年　1学年3学級、定員150名
1964(昭和39)年　1学年6学級(男子200名、女子100名)
1967(昭和42)年　学校群制度実施、広尾・目黒と共に23群
1969(昭和44)年　第一次学園紛争。第19回卒業式中止。以後8年間卒業式はおこなわれず
1974(昭和49)年　定員男女同数(男子女子とも135名)にグループによる合同選抜方式の入試に
1982(昭和57)年　都立大学、八王子南大沢に移転
1991(平成3)年　都立大学を中核に「首都大学東京」発足
2005(平成17)年　「東京都立桜修館中等教育学校」開校、1学年4学級定員160名。
2006(平成18)年　「東京都立大学附属高等学校」閉校、61期生が卒業。校旗、校歌、校章は桜修館が継承
2011(平成23)年　桜修館第1回卒業式、1期生150名卒業
2012(平成24)年　桜修館創立10周年記念事業展開
2015(平成27)年　桜修館第14期生卒業、第20期生入学
2025(令和7)年

八雲が丘の100年

桜修館は2029年に前身の旧制府立高校創立から百周年を迎えます

八雲が丘の3校

1929（昭和4）年府立高等学校創立。高等科3年・尋常科4年の7年制

1948（昭和23）年尋常科が都立新制高等学校となる

1949（昭和24）年都立大学設置。新制高校は都立大学附属高校となる

1950（昭和25）年旧制府立高等学校閉校

2006（平成18）年都立桜修館中等教育学校開校。前後期計6年制

2011（平成23）年都立大学附属高等学校閉校

1936年の府立高校キャンパス全景

府立高等学校

旧制の府立高等学校は、1929年世界大恐慌の年に開校認可され、当初は府立一中（現日比谷高校）内に間借り、1932年に八雲が丘に移転しました。

7年制、男子のみ、尋常科（中学）80名、高等科・文科理科各80名で開校されました。男女共学になったのは1949年の新制高校の2期生からです。

府立高等学校の初代校長・川田正澂（かわだまさずみ）の理念は、「英国イートン校の教育方針である英国風の格調高い人物養成を軸に、日本の高等学校の伝統とする自由と正義を重んじ、真理を愛好する自主的な高校精神」でした。川田校長は自らの教育方針を実践するにあたって、高校入試は邪魔と考えており、その考えが7年制高校の設立につながりました。

川田校長の思想を支持した層は ①先端的な教育思想の教育家、②英国流のパブリックスクールに傾倒した国際派経済人、③蛮カラに違和感を持つ上中流の保護者、だったと言われています。入学者は東京出身者が多数でしたが、全国からの受験が認められていました。又、当時の高等学校としては唯一、身体障害者でも入学が可能でした。

川田校長

1935年、川田初代校長逝去。同年、校歌「嗚呼西山の」制定。1943年東京都制実施に伴い、都立高等学校に校名を変更。同年、第一回学徒出陣、14名が入隊。1935～45年にかけて、多くの学生歌、記念祭歌が生まれました。1942年から戦時中の終業期間短縮で9月卒業、勤労動員が始まりました。翌年に戦時中最後の記念祭が行われました。1944年には勤労動員先で授業。グランドは畑、弓道場は教職員住宅になりました。

草創期は上記の通り、初代川田校長に拠るところが大きかったわけですが、戦争の足音が近づいてくる中、学校生活はどんな感じだったのでしょうか？

1979年府立高校同窓会発行の『府立高等学校五十周年記念誌』から同窓生の回想を抜粋させて頂きます。

1、学校から駒沢ゴルフ場まで野菜畑で〇〇中佐というインテリ配属将校が軍事教練の時間にゴルフ場付近でクラスを解放してくれた好意は忘れ難い。

2、当時の府高の先生方は思想傾向からいって3種類に大別することができた。第一は国粋主義者、第二は自由主義者、第三は科学的合理主義者。時節柄第一が幅をきかせている感じだったが、人数から言えば少数派で、文科系の先生の大半は本質的に自由主義派、理科系はノンポリの科学的合理主義派が多かったように思う。一方で第一、第二、第三とも共通して強い愛国心の持ち主であった。

3、決戦下の2年半の期限付きの青春期だと思っていた。しかしそれは同時代の青年の青春に比べればはるかにめぐまれたものだったろう。

桜修館中等教育学校

2006年に開校した桜修館は、6年制の中高一貫校です。旧制から都大附高が受け継いだ、校歌、校章、校旗をそのまま引き継いでいます。開校からは19年の若い学校ですが、旧制府立高から数えれば96年の歴史を持つ学校でもあります。八雲が丘の地には3つの繋がった学校があり、地域の中心となってきました。

1927年に開通した東横線の駅名は、柿の木坂駅から1931年・府立高等前駅、1950年・都立大学駅に変遷しました。桜修館正門横のバス停名は、現在も都立大学附属高校前です。

府立高校創立100周年記念事業

都立大学附属高校同窓会は、府立高校創立100周年周年記念事業を、桜修館および桜修館同窓会と共に推進、支援しています。

事業展開は今後具体化していきますが、記念式典のほか、百周年記念誌の発行、記念品、記念映像の制作、その他が考えられています。

同窓会では100周年記念事業を成功させるため、「八雲が丘学友会」（3校同窓会の合同組織）として寄付金の募集を開始しています。ぜひご協力をお願いします。

府立高校本館（後の都立大学）

●寄附金募集の詳細は14面をご覧ください。

第12回「八雲が丘賞」は吹奏楽部が受賞しました

第12回を数えた「八雲が丘賞」は吹奏楽部が受賞しました。校内で最多の部員数を誇る部の初の受賞です。ちなみに、これまでの受賞は次の13団体でした。

日本文化部茶道部門、フィールドワーク部、写真部、美術部、科学部、創作部、前期サッカー部、前期女子バスケットボール部（奨励賞）、日本文化部かるた班、軽音楽部、美術部（2回目）写真部（奨励賞）、陸上競技部。

◇

吹奏楽部の前身は、1964年頃に有志によって結成された「吹奏楽同好会」（吹同）です。中学時代のブラバン経験や、楽器好きの生徒の集まりでしたが、正式なクラブ活動として認められるまでの数年間は、練習場所や発表の場にも苦労したようです。しかし、それが今の吹奏楽部の活発な活動の基礎となっていると思います。

現在の吹奏楽部は音楽的水準も高く、近年だけでも次のような受賞歴があります。B組というのは35名までの編成、東日本部門は30名までの編成です。

○東京都中学校吹奏楽コンクール東日本部門
2023年　銀賞
2024年　金賞
○東京都高等学校吹奏楽コンクールB組
2023年　金賞
2024年　金賞・最優秀賞

他にも、高等学校アンサンブルコンテストなどでも入賞しています。

こうした確かな実力は、普段の演奏活動でもいかんなく発揮されています。表彰状にもある通り入学式、卒業式での演奏は、桜修館生の心に響き記憶に残るものでしょう。記念祭でのコンサートにはメインアリーナに多くの聴衆が集まります。また吹奏楽部員は、校内での演奏活動の他に、地域でのイベントにも積極的に参加しています。

多くの部員が所属する部の運営はいろいろ大変です。桜修館吹奏楽部はどのようにして部のまとまりを作り上げ、発展させてきたのでしょうか。

「競い合う」「調和する」「完遂する」。この三つが部の活動方針とのことです。切磋琢磨して個人の力量を高め、自分を他者に認めてもらうこと、これが競い合うことの意味です。そのうえで、高めた個人の能力を調和させることで全体として高い水準を達成すること、これが調和するの意味するところでしょう。完遂するはやり遂げること、やり遂げた体験が自信を持たせ自己をさらに飛躍させるのだと教えています。

◇

こうしてみると、吹奏楽部の演奏水準の高さとともに、部活動そのものの質の高さが浮かび上がってきます。まさに「八雲が丘賞」にふさわしい活動だということができます。

吹奏楽部に続く第13回の受賞はどんな活動になるのでしょうか。ますます楽しみな今年度の「八雲が丘賞」です。

着任のご挨拶

教育活動のさらなる充実を

都立桜修館中等教育学校長　信岡 新吾

日頃より本校の教育活動にご理解とご協力を賜り、感謝申し上げ致します。

本年四月一日付で着任しました信岡です。どうぞよろしくお願いいたします。

三月までは教育庁に勤務しておりました。久々の学校勤めと、府立高等学校、都立大学附属高等学校の伝統を脈々と受け継ぐ本校に於いて、大事な生徒をお預かりする重責に緊張感をもって着任したところです。微力ながら本校の発展に少しでも寄与すべく全力をもって取り組む所存です。

皆さまご承知のことかと存じますが今年度、桜修館中等教育学校は創立二十周年を迎えます。来年3月19日（木）には記念式典を予定しております。

在校生たちには、諸先輩方の築いてこられた伝統と歴史に思いを馳せるとともに、これからの本校を創っていく決意を新たにする機会にしてほしいと思っています。また、学校としてはこの間の教育活動の成果と課題を整理し、生徒の声、保護者の方々のご意見や同窓会の皆様のお考え等もいただきながら、充実させるところはさらに充実させ、改善すべきところは大胆に改善していく契機にして参ります。お気付きの点などございましたら是非お声をお寄せください。

この場をお借りして、今春14期生の進路状況についてご報告します。東大7名、京大3名、旧東工大5名、旧医科歯科大2名、一橋大3名、国公立医学部医学科3名と、いわゆる難関四国立大＋国公立大医学部は23名、国立大68名（文系34名、理系34名、過去最多）、早稲田大、慶応大、上智大、理科大の難関私立大158名と昨年に続き優秀な成果を挙げました。今後この水準を桜修館として維持・発展させていくことが重要と考えています。

また、男女枠が撤廃されて初となる今春の本校のへ応募倍率は、3.8倍でした。本校だけの状況ではありませんが、一昨年、昨年と応募者数が減少する傾向の中、今年度は広報活動・情報発信を積極的に行い、志願者の増加に繋げていきたいと思います。

四年後の令和11年度には府立高等学校開校百周年を控えております。遺漏なく万全の準備を進めるとともに、百周年に恥じぬ本校の教育活動の充実を図って参ります。どうぞ今後とも皆様のご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。

末筆になりましたが、皆様のご健康とご多幸を祈念致します。

八雲が丘賞

東京都立桜修館中等教育学校
吹奏楽部のみなさん

春、拍手と吹奏楽部の演奏が新入生を迎えます。そして6年後、その演奏に送られて八雲が丘を卒業するまで、桜修館生にとって吹奏楽部は最も近しい部活です。
一方で近年の桜修館吹奏楽部は、東京都のコンクールで前期後期とも金賞をとるなど音楽的水準の高さでも注目される存在です。部員同士が競い合うことで個々の技術力を高め、それを調和させることで全体が生きる、そのような部活動に敬意を表し、ここに第12回「八雲が丘賞」を贈ります。

2024年9月9日

東京都立大学附属高等学校同窓会
理事長　宍戸　迪武

「八雲が丘賞」規定

1 趣旨
この賞は、東京都立桜修館中等教育学校の生徒による優れた部活動、課外活動に対して、東京都立大学附属高等学校同窓会から贈られるものです。

2 賞と対象期間
賞の対象期間は、4月から次年3月までの1年間とし、「優秀賞」および「奨励賞」の二つを設定します。2年以上にわたって顕著な実績を上げた活動に対して「大賞」を贈ることがあります。賞は、記念品または同等金額の活動費支援とします。

3 基準
賞の選考基準は以下によります。
①年間を通じて継続的に活動を展開し、十分な実績を上げたもの
②前年度に比して活動の内容に顕著な向上が見られたもの
③対外試合、コンクールなどで優秀な成績を上げたもの
④その他桜修館生徒にふさわしい優れた活動を行ったもの

4 選考
対象となる活動について桜修館中等教育学校の推薦をうけ、都大附高同窓会理事会において決定します。

5 賞の贈呈
前年度の受賞活動に対し、原則として次年度記念祭の期間中に表彰し、賞の贈呈を行います。

来場者を迎える立て看板群

ここから入場します！

記念祭プログラム

「タイムスリップ」看板

76回 記念祭 大グラフ特集

昨年の9月7日（土）、8日（日）の二日間、第76回記念祭が開催されました。ちなみに第1回は1948年、前身の都立大学附属高校時代の開催です。

ここで疑問。文化祭でもなく学園祭でもなく、なぜ「記念祭」というのか。在校生から聞かれるこの疑問への答えは、前身が旧制高校だから、です。戦前の旧制高校には、ほぼすべて学生寮があり、学生たちが寮の歴史を記念して「記念祭」おこなっていたのです。当初寮のなかった府立高校でも、名称は「記念祭」でした。

昨年は、新型コロナ感染症の不安と影響が小さくなったことから、外部からの来校者も多数受け入れ、盛大な記念祭となりました。

今回の記念祭のテーマは「タイムスリップ」。桜修館の現役生は、下のポスター

2年　日本語劇
タイムスリップしたら捕まりました

2年　英語劇

1C　展示
わたＣたちはどう生きるか

1B　展示
時をかける1-B

1A　展示
1A 万博　４０人の生徒達

3C　劇
ブラッシュアップライフ

3B　劇
ヴェニスの商人

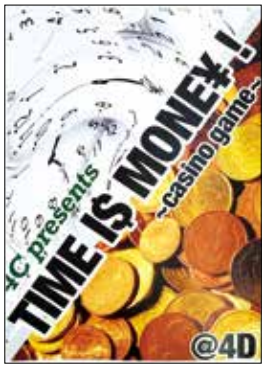
3A　劇
ナイゲン

2年　展示（未来）
あったらいいな展

2年　英語劇
My Past That I Don't Now

5D　食物模擬
今日から俺握るわ！

4D　イベント
俺たちのガチパターゴルフ



4C　イベント
Time is money

4A　イベント
大正浪漫脱出奇譚

3D　劇
フルムーンガール

同窓会ルーム「八雲が丘の集い」出展

同窓会ルームには在校生も

今年も名物Ｔポイントに垂れ幕

に見られるように実に多彩な取り組みを披露していました。旧制以来の伝統の演劇、特色あるイベント、ユニークな展示など、見所満載でした。

同窓会では、例年通り同窓会ルーム「八雲が丘の集い」を出展。歴史的資料や写真の展示、95年間の三校の歴史年表の掲出、校歌・学生歌・寮歌・記念祭歌のＤＶＤの放映などを行いました。

恒例の日曜日の合唱イベントは、昨年より参加者が減って少し残念な結果でしたが、ＰＴＡの方などに旧制時代からの学生歌・寮歌・記念祭歌などを披露することが出来ました。

同窓会では、今年の記念祭でも同窓会ルーム「八雲が丘の集い」を出展予定です。ちょっとした飲み物も用意いたしますので、どうぞお立ち寄りください。

今年の記念祭は
9月6日（土）、9月7日（日）です
ぜひおいでください

科学部　展示
集まれ化学の森

メディアアート研究会　展示

6D　劇
時をかける少女

6B　劇
翔んで埼玉

6A　劇
12人の怒れる者たち

日本文化部かるた班
いにしへの

出現できなかったポスター、ごめんね

図書委員会　イベント
古本市

写真部　展示
レトロ

写真部展示
「日常と非日常」

10か月間のタイムスリップ
いまここに
10か月前のポスター28枚が
突如、時空を超えて出現！

美術部　展示
絵美展

日本文化部茶道班　食物模擬
桜庵柿の木茶会

水泳部　食物模擬
すいすいゼリー

創作部　展示
こってこ展

盛んな同期会・クラス会レポート

23期E組クラス会

開催日：2024年5月19日
会　場：レストラン一軒家
イタリアン「ELSA新宿本店」
参加者：18人

およそ10年ぶりに23期E組クラス会を開催しました。今回は5年前に企画した23期同窓会がコロナ騒ぎで立ち消えになり、代わりにE組のクラス会として開催しました。当日は18名（男子10名女子8名、当日キャンセル2名）の参加となり、中には卒業以来50年ぶりに会うクラスメートもおり、会場のパーティルームも広く、会の冒頭では一人ひとりが今だから話せる高校時代の秘話などの紹介等も行い、懐かしい話で皆大いに盛り上がりました。あっという間に予定の2時間半を超え3時間余り、楽しい時間を過ごすことが出来ました。後に参加者から、今回は実現できなかった桜修館の教室をクラス会の集合場所としてお借りできればとの意見もあり、次回開催予定の2026年に向け、50年前の高校時代にタイムスリップする事を期待する声もありました。

（小島　透・記）

28期同期会

開催日：2024年7月6日
場　所：恵比寿イーストギャラリー
参加者：99名

28期のA組からF組までの皆が顔を合わせる同窓会が卒業以来、初めて開催されました。

60歳となる節目の年に「還暦同窓会」を計画していました。しかし、国難ともいえるコロナ禍のため、4年遅れの開催となりました。

卒業したのは1978年3月。翌月にアイドルグループ「キャンディーズ」の解散が控えていました。気が付くと46年が経っています。

クラスが違い、再会が卒業以来の同窓生も多かったことでしょう。誰が言ったか忘れましたが、貴重な体験を「器」に例えることがあります。高校時代はまさしく各自がそれぞれの「器」を焼き上げた時期だったような気がします。卒業してから、皆、自身の器に注ぐ美酒を醸してきたのではないでしょうか。この日は、ようやく美酒の封を切り、堪能することができたような気がします。

来賓として地学の久野猛先生、数学の岸修先生、英語の加藤良雄先生、日本史の吉田夏生先生が駆けつけてくれました。

会は久野先生の乾杯の音頭で開会。まずは、クラスごとに分かれたテーブルで歓談が始まりました。全員がネームプレートを首からぶら下げています。ネームプレートの色はクラスマッチのクラスカラーです。この色を目にし、当時のことを思い出すきっかけになった方もいたかもしれません。

はじめはクラスごとに昔話に花を咲かせてしましたが、次第にクラスのテーブルを離れ、他クラスの同窓生のもとへ行き、旧交を温めていました。

会場には高校時代の写真が次々と映し出され、十代の自分たちに戻った気分になりました。

振り返ると、28期は3年間、クラス替えなく、クラスのまとまりはよかったのではないでしょうか。盛り上がった話題の一つが2年生の時の修学旅行が九州だったことです。修学旅行委員会を作り、「どのような形の修学旅行がふさわしいのか」と議論したことを覚えています。場所は「九州」、「旅行は複数人で実施」の基本ルールを決め、後は、それぞれ企画するという旅行になりました。

A組は「クラス単位での行動しよう」と決め、バスで周遊しました。2、3人を1グループとして修学旅行を実施したクラスもありました。後日談として聞いたのが、見学施設で、人数が少ないため修学旅行生と思ってもらえず、修学旅行割にしてもらうために苦労したとか。

個人的に思い入れがあるのが、記念祭の「ファイヤー」です。諸事情で中止になり、復活のため、先生方との協議を続けました。

（次ページへ続く）

盛んな同期会・クラス会レポート

制服もなく、髪型に規制もなく「自由」でした。大人びた高校3年間でした。高校時代の肩まで伸ばした髪の自分が写っている写真を見ると、赤面します。

手元に当時の修学旅行ために作成した「火の国へ」があります。国語の小野牧夫先生（故人）が修学旅行について「自然のままの自分が、ぶ厚い歴史や大きな自然にそっと触れる時」だと記していました。集まった同窓生は皆、卒業後、修学旅行の時と同じように、「自然のままの自分」で様々な出来事と「そっと触れてきた時間」を過ごしてきたと思います。これからの時間も「自然のまま」で過ごしたいですね。

◇　◇　◇

同窓会企画が浮上し、各クラスの幹事会が開かれたのは2018年4月でした。久野先生から「還暦になる年に同窓会をやったらどうか」との提案がきっかけです。幹事は何度も集まり、会場探しなどを話しあい、2020年4月開催を目指しました。しかし、コロナ禍で中止。幹事の皆さん、お疲れ様でした。「喜寿同窓会」も開催できるといいですね。　（28期 安部文晴・記）

16期G組クラス会

開催日：2024年10月19日
会　場：渋谷パンダレストラン
参加者：14名

喜寿77歳を迎える年のクラス会となり15－1＝14人が集まりました。今年は皆さん何とか元気でお過ごしのご様子、訃報もなく久々の顔ぶれも加えにぎやかな会となりました。いつもの近況では昔の鬱の話しや、癌闘病記やら白内障とか健康談義に花を咲かせ老々介護、独居老人や断捨離、リサイクルや、ボランティアなどの関心事で話しがはずみました。来年も10月18日（土）渋谷パンダレストランで開催予定を楽しみに散会。次回は是非、皆様とお会いしたいです。　（兼田一晴・記）

参加者（敬称略）鹿島 苅谷 松井 黒田 佐久間 上地 兼田 小山 加藤 大羽 有田 宮澤 中川 知野

13期傘寿記念同期会

開催日：2024年10月22日
会　場：自由が丘イタリアン レストラン「シャッターズ」
参加者：45名

1992年に25年振りに開催された13期同期会は、しばらく休会の後2000年に再開され、その後各クラスの持ち回り制で毎年継続して開催されてきました。2019年喜寿記念同期会として全クラスの幹事が合同で開催準備を進める中、世界的パンデミックのコロナ禍に見舞われ、やむなく開催を見合せてきました。猛威をふるったコロナも沈静化の兆しが見えた2024年、開催を望む同期の方々からの声に押され、「傘寿記念同期会」として久し振りに開催されました。

当日は参加予定のほぼ全員にお集まりいただき、賑やかな時間を過ごした後、次回2025年はC組が担当幹事に指名され、お開きになりました。久々の開催でしたが、参加の皆さんは思い出話や近況報告など楽しい時間をすごしました。　（斉藤充孝・記）

52期同期会

開催日：2024年11月2日
会　場：XEX日本橋 SalvatoreCuomoBros.
参加者：69名

高校を卒業して20年が過ぎ、COVID19が5類に移行された年ということもあり、恩師の先生方3名をお迎えして卒業生66名での同窓会を開催しました。久々に集まるということもあり、大多数が行くまではドキドキ不安だったとの声が聞かれました。ですが、集まってみれば当時の仲の良さで打ち解け、高校の時にはあまり話さなかった人達とも色々話して、とても楽しかったというお言葉を沢山頂けました。

進行中は先生方からの懐かしいお言葉を頂き、クイズ大会をクラス対抗で行って盛り上がったりとあっという間の

盛んな同期会・クラス会レポート

同窓会となりました。今回の開催で、久々に連絡を取り合ったり、繋がれるキッカケになれば幸いです。

（渡辺雪代・記）

44期C組クラス会

開催日：2025年1月12日
会　場：祢保希（ねぼけ）新宿店
出席者：16名

2025年最初の連休を利用し、コロナ禍後、久しぶりのクラス会を新宿の祢保希で開催しました。今回は私にとって初めての参加でしたが、皆さんがあたたかく迎えてくださり、すぐに高校時代の空気に包まれました。

初めこそ久しぶりな感じもありましたが、直ぐに高校時代の会話のテンポになり、一人ずつ改めて自己紹介などしながら、現在の仕事や暮らしについて語り合いました。長い年月を経てなお、連絡を取り合っていた仲間も多く、当時からのつながりが今でも続いている人もいる事に驚かされました。

外見こそすっかり大人になっていたものの、話し方やキャラクターはあの頃のままで、「実は当時こんな話があった」といった思い出や裏話も飛び出し、会場は終始賑やかな笑いに包まれました。

町田先生はご事情もあり、今回は参加されませんでしたが、心のこもったお手紙を寄せてくださり、全員で懐かしく拝読しました。暖かい雰囲気の中、幾ら話しても会話が尽きぬくらい、楽しい場となりました。次回も多くの仲間と再会できることを、楽しみにしています。

（綿貫文人・記）

19期同期会

開催日：2025年5月18日
会　場：balloballo渋谷店
参加数：63名

2019年10月のHCDから5年経過。当初は喜寿を迎える2027年を予定していましたが、そろそろ疲れも見えてきており、2年早めて5月に同期会を開催。思い出話、近況報告で盛り上がりました。

健康のために沢山しゃべって、沢山笑う狙いは達成できたかな？　余興として吹同OBの鷲沢さんによる校歌、学生歌のトランペット演奏、持田さんによる弾き語り。他に興味深いスピーチをいくつも頂きました。

又、4年後に旧制府立高等学校設立（1929年）から百周年を迎えるにあたって、百周年事業支援を目的とする寄付を募らせて頂きました。

19期は昭41年入学。男子200名、女子100名。　今年度に75歳になります。

（後宮邦彦・記）

（注）今回、同期の集まりについては本文で「同窓会」と表記してあっても、タイトルは「同期会」に統一させていただきました。

硬式テニス部の堀越君追悼会

久保田純司、園本雄司・18期

4月4日午前、18期都高硬式テニス部ＯＢ・ＯＧ会のメンバーのうち7名が同期の亡き堀越俊明君を追悼するために58年ぶりに母校のテニスコートに参集した。

堀越君は左腕の名プレーヤーで、最近もコートを自在に駆け回っていた。彼が悲運に見舞われたのは昨年12月のこと。その日もコートでプレーの最中、突如、心臓発作に見舞われ、救急搬送されるも意識を回復しないまま、今年の元旦に逝去された。

彼の葬儀に参列したＯＢ・ＯＧ会メンバーが「追悼テニスを」ということで一致。さらに「出来るなら彼との思い出のコートで」とまで思いは募った。

そこでＯＢ・ＯＧ会の久保田会長が同窓会の嶋津和行理事長、佐藤親房監事にご相談したところ、熱心に学校へ働きかけて下さり、ご了解を得て追悼会の実現に至った。お二人にあらためて御礼申し上げます。

春休み中ながら桜修館中等教育学校の吉識晋二・後期課程副校長は我々を出迎えて下さり、学校の現状も色々教えていただいた。我々の唐突なお願いを理解下さったことに深く感謝します。

コートサイドの審判台には堀越君の遺影を安置、彼の往年の華麗なボレーに想いを馳せつつ、後期高齢者同士の足元の危うい追悼プレーは無事、終了。

その後、都立大学駅近くのお店に移動、追悼会第二部を催して思い出話に花を咲かせた。人懐こい堀越君の性格に魅かれて大久保駅近くの自宅に入り浸ったこと、彼が得意だったボブディランのギター弾き語りや、「ＯＧの〇〇さんに好意を寄せていたものの相手にされなかった」という真偽不明の噂話などなど。

第二部からの参加も含めたメンバー10名は以下の通り。久保田純司、黒木明、山本高士、中津川（旧姓近藤）典子、茶谷博夫、加納慶人、河合衛、石橋力、中平（同上野）敏雄、園本雄司。

事務局インフォメーション

● 桜修館20周年記念事業

桜修館中等教育学校は2006年に開校し、来春に開校20年を迎えます。今年３月には第14期生が卒業し、桜修館卒業生の合計が2,000人を超えました。東京都の公立中高一貫校の中でも実績、人気共にトップクラスの学校となっています。

来年3月19日には、20周年の記念式典がめぐろパーシモンホールで開催されます。また、記念誌の発行も予定されているようです。詳細が明らかになった時点で、ホームページで明らかにしたいと思います。

同窓会からテントを寄贈

20周年のお祝いに八雲が丘学友会からは、テント４張りを寄贈いたしました。早速、５月に開催されたクラスマッチで活用されています。クラス毎に四色の色分けをした校章が印されています。さらに桜修館同窓会からも同じく４張りが贈られており、前期・後期それぞれの単位で利用できるようになりました。

ちなみに10周年の時には、八雲が丘学友会から正面玄関上の校舎壁面に校章を贈っています。

事務局インフォメーション

● 同窓会定期総会を開催

２０２４年10月26日(土)、桜修館多目的ホールで同窓会総会が開催されました。前回、コロナ感染症による影響により一年遅れで開催したため、今回は２年ぶりの開催になりました。当日、出席者は36名、若干淋しい人数でした。

同窓会の理事長を１３年の長きに勤め上げられ、当会を牽引して頂いた宍戸迪武さんが退任されて、新しい執行部が信任されました。宍戸さんは100周年記念事業の推進にお力を注いで頂けるとのことです。宍戸さんのこれまでの貢献に感謝の意を表するとともに、今後ともお願い申し上げます。

また、総会終了後、会場を自由が丘の「Café＆Bar Cerd」に場所を移し、懇親会を開催しました。コロナ禍のため、長らくこのような会合は自制していましが、久しぶりに同窓生が集まり、楽しい会話を交わすことができました。

活動報告

1　会報発行の現状
2　名簿の管理状況
3　「八雲が丘ホームカミングー」の開催
4　八雲が丘学友会の活動
5　記念祭への取り組み
6　「八雲が丘賞」
7　同窓会ホームページの管理
8　学生歌、記念祭、寮歌の継承、保存
9　八雲が丘の再整備

会則一部改正と執行部の選出・紹介

1　会則改正：副理事長の設置
2　新執行部の体制

今後の活動方針

一、　同総会会員の同窓生としての活動を支援し会員相互の親睦を深める、
一、　旧制府立高校以来の伝統、精神を受け継ぎ、桜修館に引き継いでゆく、
一、　桜修館の発展、生徒の成長に寄与するなど、社会的に意義ある活動をする、

● 2025年度役員

理事長・ホームページ担当	嶋津　和行	（26期）
副理事長・名簿管理担当	石川　恵子	（35期）
常務理事・会計／ＨＣＤ担当	田中　聡美	（43期）
常務理事・音楽事業担当	佐藤　文行	（17期）
常務理事・百周年記念事業担当	後宮　邦彦	（19期）
監事	簑原　利憲	（11期）
	佐藤　親房	（18期）
顧問	宍戸　迪武	（13期）
	佐々木浩二	（15期）

● 創立100周年記念事業･寄付のお願い

特集ページ（５面）にあるように、４年後の２０２９(令和11)年は、私たちの母校の前身・府立高等学校の創立から100年の年です。

昨年、桜修館内に、来年２０周年を迎える桜修館創立２０周年と、府立高校創立からの100周年の記念事業を検討する「周年準備委員会」が設置されました。百周年記念誌の刊行、記念式典、記念講演会の開催、記念品の製作、記念映像作品の制作などが考えられています。これらの実施に当たっては、八雲が丘学友会（３校同窓会の連合組織）の財産を中心に、東京都の予算、桜修館と都大附の二つの同窓会、およびＰＴＡからの寄付などで経費を賄います。

昨年、本誌の呼びかけにより、２０万円を超える寄付を頂きました。記念事業成功のため、引き続き寄付をお願いいたします。

【寄付受け入れ口座】

みずほ銀行　都立大学駅前支店（店番号１３３）
普通預金口座番号　１３３４４４４
名義　ヤクモガオカガクユウカイ（八雲が丘学友会）

ご寄付入金の際は、氏名の前に「卒業期・クラス」を入れてください。

（例＝13Aトリツハナコ）

旧制府立・都立卒業の方は、氏名の前に「フ」または「ト」と卒業年を入れてください。

（例＝フ19フリツタロウ、ト23トリツジロウ）

● 2024年度の会議ほか

2024年

5月１８日	２０２３年度会計監査
5月２５日	八雲が丘学友会
6月29日	上期「理事･監事･評議員会議」
7月13日	周年準備委員会
9月7日･8日	第76回記念祭
9月9日	第12回「八雲が丘賞」表彰式
9月14日	八雲が丘学友会
10月5日	周年準備委員会
10月26日	定期総会
11月30日	第8回「八雲が丘ホームカミングデー」

2025年

1月25日	八雲が丘学友会
2月1日	下期「理事･監事･評議員会議」
2月23日	編集会議
3月16日	編集会議
3月17日	同窓会報制作関係者顔合わせ（木下デザイン、奥村印刷）
4月26日	八雲が丘学友会
5月11日	２０２４年度会計監査

事務局インフォメーション

【表Ⅰ】　2024年度貸借対照表(財産目録)

2025年3月31日現在

科目・摘要	金額（単位：円）
1、資産の部	
現金及び預金	
現金（PayPay）	103,451
みずほ銀行普通預金	929,779
みずほ銀行定期預金	5,006,912
ゆうちょ銀行当座預金	3,486,126
PayPay銀行普通預金	1,573,350
現金及び預金　計	11,099,618
資　産　計	11,099,618
2、負債の部	
未払金	
負　債　計	-
3、正味財産の部	
前期繰越正味財産	11,473,427
当期正味財産増減額	-373,809
正味財産計	11,099,618
負債・正味財産計	11,099,618

【表Ⅱ】　2024年度正味財産増減計算書

2024年4月1日～2025年3月31日

科目・摘要	金額（単位：円）
Ⅰ、経常収益	
1、受取会費	2,445,000
2、寄附金	101,170
2、その他雑収入	-
2、利息収益	1,148
経常収益計	2,547,318
Ⅱ、経常費用	
1、会報費	
会報原稿作成費	176,000
会報印刷製本料	914,067
会報通信運搬費	1,011,507
会報費計	2,101,574
2、ホームカミングデー費	
懇親会費収入	-
懇親会費支出	-
案内送付先作成送付費用	-
会場等賃借料	-
HCD雑費	-
ホームカミングデー費計	-
3、記念祭費	
通信運搬費	-
表彰金	100,000
記念祭雑費	-
記念祭費計	100,000
4、経常管理費	
旅費交通費	440
通信運搬費	61,028
支払手数料	259,785
会議費交際費	360,614
消耗品費	15,516
雑費	22,170
経常管理費計	719,553
経常費用計	2,921,127
当期正味財産増減額（経常損益	-373,809

監査報告
財務諸表、帳簿、証憑等を精査し、上記決算書に誤りがないことを確認します。　2025年５月11日
監事

● 2024年度事業報告

２０２４年度は１０月の定期総会で執行部が信任されて、新たな体制がスタートしました。今後も同窓生皆様の変わらぬご支援・ご鞭撻をお願いいたします。

定期総会は本来３年に一度ですが、前回、コロナ禍の影響により、一年遅れで開催したため、今回は２年ぶりでした。また、終了後、懇親会を行い、参加者の親睦を図ることができました。ただ、出席者が36名と少し寂しい結果になりました。多くの皆さんに参加頂ける形になるように検討したいと思います。

会報は２０２４年６月３０日にＡ４版16ページを発行。９,０００部を印刷し国内外の会員に７,７４１部、恩師に１４５部を送付しました。ほかに桜修館職員、生徒、ＰＴＡに３００部を配布しました。

名簿管理の現況ですが、２０２３年度の状況からは大きく変わらず、住所判明者の数は減少傾向にあります。ホームカミング―デーの開催による掘り起しが歯止めになっています。気掛かりな点は、近年、会報受取拒否者が微増していることです。それぞれに事情があることを察しますが、同窓会を運営するものとして残念な気持ちです。また、当会に復帰されることを願ってやみません。

第７６回記念祭は９月７日(土)、８日(日)の二日間で開催され、同窓会ルーム「八雲が丘の集い」を出展、旧制府立高以来の文物、写真の展示、歴史年表の掲出、学生歌・寮歌・記念祭歌のＤＶＤを終日放映したほか同窓会会員による学生歌・寮歌などの合唱イベントを行いました(８、９面参照)。

第１２回「八雲が丘賞」は、前期・後期とも目覚ましい活躍をしている吹奏楽部が受賞し、記念祭の閉祭式での会場で表彰を行いました(６、７面参照)。

第８回「八雲が丘ホームカミングで―」は11月30日に桜修館の「多目的ホール」で開催。第２４期、第４９期、桜修館第３期の皆さんが対象で、恩師２名を含む約１４０名が参加するという大盛況のもと行われました(２、３、４面参照)。

八雲が丘学友会は５月、９月、2025年１月の３回開催され、桜修館同窓会、学校、ＰＴＡとの情報交換が行われました。

● 2024年度決算報告

２０２４年度は、約３７万円の赤字決算になりました。

現在、約１２００名の会員の方による会費納入と若干の寄付により、２５４万円余りの収入に対して、支出は会報発行にかかる費用が２１０万円と大半を占めています。赤字決算の主な原因は会費収入が前年よりも約１６万円減少したことと、会議費交際費が約１３万円増加したことです。後者は総会と理事・監事・評議員会議の懇親会に会費補助と支出していますが、飲食代そのものが高騰したことと、当日キャンセル者が続出するなど補填の費用が掛かりました。先の理事・監事・評議員会議で会費補助の考え方について議論を行い、見直しを図ることにしました。詳細はホームページの議事録を参照してください。

また、会費収納に伴う支払手数料が納入金額の１０％を越えています。コンビニ、ゆうちょう利用による支払いでは圧縮は困難であり、昨年度からPayPayによる納入を可能としていますが、まだ、利用率は低いです。今一度、１６面の「会費納入の仕方」をご参照願います。

昨年１０月に郵便料金が値上げされるなど、このままでは健全な同窓会活動を行うには厳しい時代に入ると思われます。理事・監事・評議員会議の場で年会費について議論を行い、次年度からは見直しを図りたいと考えています。会員の皆様のご理解をお願いいたします。

事務局インフォメーション

＜年会費 2,000円 納入のお願い＞

●PayPayでも納入していただけます

（LINE Payはサービス終了）

今回納入をお願いするのは、２０２５年度の会費２，０００円です

３年会費５，０００円、終身会費３０，０００円は廃止されています

●次の方は、納入していただく必要はございません

① 特別会員の先生方

② かつて終身会費３０，０００円を納入された方

＜会費納入の方法＞

●ゆうちょ銀行、コンビニでの納入

同封の払込取扱票をお使いください

●PayPayでの納入

ID:todaifu1948

送金時に、メッセージに卒業期と氏名を入力してください

●銀行振り込みでの納入

PayPay銀行（旧ジャパンネット銀行）すずめ支店（００２）

普通預金　６２７１３９８

トウキョウトリツダイガクフゾクコウトウガッコウドウソウカイ

ATMからの振り込み、ネットバンキングご利用の場合は

振込人名の前に卒業期・クラスを入れてください。

同窓会への連絡方法

住所の変更、訃報、その他の同窓会への連絡は
下記のいずれかの方法でお願いします。

● インターネット

同窓会のホームページを開き右下の「Contact us」ボタンをクリックするとメールフォームが出ます。

● 郵送

〒152-0023　東京都目黒区八雲１－１－２
都立桜修館中等教育学校内
都立大学附属高等学校同窓会

または

〒183-0053　東京都府中市天神町３－８－３７
嶋津方　都立大学附属高等学校同窓会事務局

編集後記

2022年に開催された第6回ホームカミングデーで久しぶりに母校を訪れ、懐かしい校舎や同期との再会に心が躍りました。とても楽しく、あたたかな時間を過ごす中で、こんな素敵な場づくりに自分も関わりたいと思い、同窓会のお手伝いを始めました。今回、ご縁あって会報誌にも参加させていただくことになりました。このつながりが、次の世代へと広がっていけば嬉しいです。（手塚）

異動されました桜修館の前石崎校長先生、同窓会へのご協力ありがとうございました。お礼申し上げます。

年会費の納入がPayPayでもできるようになっています。ぜひご活用いただき、同窓会の活動充実にご協力をお願いします。年会費は2000円です。

来年も会報の原稿締切りは4月30日です。多数の原稿をお待ちしています。

会報
編集委員会

編集長・手塚健一（45期）
川田秀文（14期）　嶋津和行（26期）
石川恵子（35期）　田中聡美（43期）
水越　渉（43期）　漆畑朋子（44期）
水島鮎子（45期）　宍戸迪武（13期）

訃報　謹んでお悔やみ申し上げます

同窓会事務局に連絡のあった方のみ掲載しています

英語	春山秀雄先生		2024年8月12日
期・組	姓 名	旧姓	
2A	岩井　洸		2024年4月3日
3A	米田　崇夫		2023年9月5日
3A	堀　那美子	川越	2024年3月2日
3B	吉村明比古		2022年2月19日
4C	小中陽太郎		2024年12月3日
5A	大野　忠雄		2018年10月9日
5A	重廣　敦		2019年3月3日
5C	白鳥　正喜		2023年10月
5C	前田　滋		2024年5月1日
6A	河田　和光		2024年1月23日
6B	五十嵐意承		2022年2月1日
7A	原田　昌興		2023年12月19日
7B	尾崎　恒		2024年11月24日
8A	伊藤　壮		2024年8月27日
8A	鈴木　和夫		2022年9月27日
8A	西田　雄彦		2024年6月
8A	阿金　由美	伊藤	2024年2月28日
8B	中島　偉晴		2024年10月4日
9A	波多野　勲		2017年5月
9B	飯島　宏		2025年1月27日
9C	下里　容一		2024年8月12日
10A	竹内　毅		2020年9月25日
10B	高橋　英	井上	2024年5月8日
10B	田中　鶴代	丸山	2024年8月7日
10C	佐伯　貞浩		
11C	阿部　倶男		2024年1月3日
11C	森田　和男		2023年11月6日
12A	中野　一男		2023年11月26日
12C	小沢　清		2024年7月25日
14B	水野淳二郎		2023年4月19日
15D	中屋　健吉		2019年
16C	菱沼　千明		2024年6月28日
16C	越智　尚子	守山	2024年11月7日
17D	中山　泰雄		2023年10月9日
17E	村山　直久		2024年6月15日
21A	祖川　信雄		
21C	田島　健三		
21D	笠間　登		
21E	伴　博之		2023年11月1日
21E	市川　優美子	渡辺	2024年10月18日
21F	柘植　徹也		
31B	櫻井　慎治		2024年3月
33A	三原　敬史		2022年4月17日
33D	石井亜矢子		2024年6月18日
33F	山口　則貴		2021年8月4日
34F	飯田　三那子	近藤	2023年7月
37D	土橋　裕美子		
40C	小林　弘政		2020年6月
42B	安井　珠絵		2024年10月19日